

ワカヤマソウリユウを活用したまちづくり

平成18年（2006年）に鳥屋城山（長谷川地区）で発見され、昨年12月に新属・新種であることが発表されたモササウルス類は、通称「ワカヤマソウリユウ」と命名されました。ワカヤマソウリユウは、尾を除くほぼ全ての骨格化石が保存されており、モササウルス類では日本国内はもとより、アジアおよび北西太平洋で唯一の全身骨格化石であるなど、世界的にも極めて重要な化石と評価されています。

有田川町としては、この貴重な化石を今後のまちづくりに活用するため、6月から古生物学者の荻野慎諧（おぎのしんかい）を地域プロジェクトマネージャーとして採用し、地域交流センター（ALEC）を拠点として取り組みを始めています。まず、ワカヤマソウリユウがどのような姿で、どのくらいの大きさであったのかを分かりやすく示すために、3Dプリンターで全身骨格の復元模型を制作し、研修室で展示しています。現在、ほぼ全ての部品の打ち出しが完了しており、その姿や大きさを体感していただくことが可能な状態となっています。また、出来上がった復元模型は触ったり、移動させたりすることもできます

ので、町内の学校をはじめ、さまざまなイベントなどにも展示を予定しています。この他に、ワカヤマソウリユウの化石を生かした観光振興などにも取り組み、「ワカヤマソウリユウ発見のまち有田川町」を全国にPRし、知名度向上を目指していきます。地域プロジェクトマネージャーの役割は、たくさんの方々の出合い、交流しながら地域の課題解決に取り組むことにありますので、関心のある方は訪ねていただければ幸いです。

### 荻野慎諧からのメッセージ

有田川町の皆さま、荻野慎諧です。私はこれまでに兵庫県・福井県・徳島県と、全国の化石産地で化石を活用したまちづくりを行ってきました。有田川町で見つけたワカヤマソウリユウは、これまで携わってきた全国の化石と比較しても、引けを取らないポテンシャルを秘めていると言えます。研究者として、また、まちづくりの専門家として、数年かけてこのワカヤマソウリユウを、魅力的な町のコンテンツに作りあげていこうと考えています。皆さまにもぜひご協力をお願いいたします。普段は地域交流センター（ALEC）におりますので、お気軽に遊びに来てください。

